

Y04c 文系学生むけ授業の新しい試みー絵本を作る

加藤万里子 (慶応大)

大学文科系学生の天文学の講義で、グループ発表と絵本の作成という新しい試みをしたので報告する。

この講義(通年4単位)のねらいは、(1)天文学全般にわたる幅ひろい知識を身につける(2)受動的に知識を受け取るだけでなく、積極的に理解する。つまり、今まで持っていた断片的な知識と関連づけて考えたり、自分の疑問を整理して質問できるようにする。(3)理解したことを自分の文章で書ける、である。そのために、授業では学生をグループに分けて発表させたり、絵本を共同製作することを試みた。学生に要求することは次の点である。

1. 教科書(新・100億年を翔ける宇宙)の内容を理解する。
2. 教科書の問題をグループで担当して授業中に発表する。必要な準備は、図書館で調べ、発表内容をまとめ、発表を分担することである。発表時間は目標5分で質疑が30分、年間で4題担当する。
3. 発表の質疑応答を通じて、疑問を出すことを学ぶ。疑問は強制的に考えさせることもある。
4. 授業中にとりあげた問題を中心として、問題を6題含む絵本を作る。長さは本文が10ページ程度。ストーリーは自由で、主人公も自由に決めて良い。SF的な要素が入ってもよい。ただし問題の答は科学的にちゃんと書くことを要求する。(主人公は人間の他に、宇宙人や電子というものもあった:学生の発想は面白い)
5. 絵本の作成を通じて本の構成を勉強する。まえがきやあとがき、目次、奥付もつける。

会場では1年間のカリキュラムとともに、学生の作成した絵本も展示する。